

令和元年8月2日

岩沼市議会議長 森 繁 男 殿

会派名 岩沼政策フォーラム

代表者名 会長 沼 田 健 一



調 査 研 究 等 報 告 書

実施期日	令和元年7月1日（月）～令和元年7月3日（水）
参加者氏名	沼田健一、森繁男、櫻井隆、飯塚悦男、布田一民、国井宗和、佐藤一郎、佐藤淳一、高橋光孝、菊地忍、佐藤剛太
調査地等及び調査事項等	(1) 調査地・研修場所（北海道千歳市） 日時 令和元年7月1日午後1時30分～4時30分 調査・研修内容 ① 防音対策等について ② 新千歳ターミナルビルディング(株)： 空港概要説明、エンタメ商業施設案内
	(2) 調査地・研修場所（北海道江別市、厚真町） 日時 令和元年7月2日午前10時45分～午後3時30分 調査・研修内容 ① 江別市子育てひろば「ぽこあぽこ」：施設見学 ② 厚真町：北海道胆振東部地震災害現場視察
	(3) 調査地・研修場所（北海道札幌市） 日時 令和元年7月3日午前9時00分～12時00分 調査・研修内容 ① 北海道さっぽろ「食と観光」情報館：施設見学 ② 札幌市資生館小学校：施設見学（子ども関連複合施設）

※ 別途報告書を作成の上、添付してください。

※ 報告書には、報告者氏名、調査・研修目的、調査・研修内容及び効果・成果等を記載の上、その他調査・研修内容が分かる資料（視察時資料、研修資料等）を添付してください。

I	調査・ 研修地	北海道千歳市（千歳市役所）
	調査・研 修年月日	令和元年7月1日（月） 午後1時30分～2時30分
	調査・ 研修項目	防音対策等について
	調査・ 研修内容 等	<p><b>1. 調査・研修目的</b>          仙台空港の運用24時間化に対して、仙台空港運用時間延長問題調査特別委員会で協議している中で、既に24時間運用を行っている新千歳空港の空港所在地である千歳市における地域住民への防音対策について、協議され、合意までに至った経緯について調査を行った。</p> <p><b>2. 調査・研修内容</b></p> <p>(1) 新千歳空港の状況          新千歳空港における直近20年間の乗降客の推移は、国内線は1,800万人から1,958万人と年間2.5%の増となっている。国際線は、インバウンドなどで、最近5年間で年間平均24%と急激に増加している。</p> <p>(2) 防音対策について</p> <p>① 6枠合意の課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成3年9月 道から24時間運用対策案の提示              （住宅防音対策・地域振興対策）</li> <li>・平成5年11月 24時間運用対策の再提示              （住宅防音対策・地域振興対策）</li> <li>・平成6年3月 基本合意</li> <li>・平成6年4月 合意書に調印</li> </ul> <p>② 6枠基本合意内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・22時から翌朝7時までに国際貨物便の離発着を6回／日</li> <li>・「住宅防音対策」及び「地域振興等対策」の実施</li> <li>・エアラインに対する飛行経路（深夜・早朝時間帯）の遵守</li> <li>・低騒音航空機の使用促進、航空機の安全運航確保</li> <li>・地域振興等対策の基金30億円（ニトリ、ソフトバンク）の造成</li> </ul> <p>③ 住宅防音対策の区域</p> <p>ア 基本区域：航空機騒音予測コンター調査（平成3年実施）で、70W以上の区域</p> <p>イ 準対策区域・補完区域：70Wの基本区域を含む町内会で70W未満の区域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準対策区域：基本区域と集落が密集している実態からみて基本区域に準じた対策を行うことが適当な区域</li> <li>・補完区域：騒音が一定程度ある区域</li> </ul> <p>※70W：70WECPNLで航空機騒音のうるささ指数</p> <p>④ 住宅防音対策の内容（6年度から12年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅防音工事</li> <li>・経過住宅機能確保</li> </ul>

- ・ 冷房装置の設置
- ・ その他（移転補償、転出助成）
- ⑤ 住宅防音対策工事の概要
  - ・ 基本区域 70W以上、準対策区域、補完区域別
  - ・ 85W以上、75W～85W未満、70W～75W未満、70W未満別
  - ・ 計画遮音量別
- ⑥ 地域振興対策
  - ア 基金（30 億円）による事業
    - ・ 町内会助成事業：コミュニティ活動に関する事業等（お祭り、運動会、敬老会、子供会など）
    - ・ 地域安定化促進事業：地域社会の維持・活性化に資する事業（防犯・防災グッズ、ゴミステーションなど）
  - ※未実施事業もあるが、千歳市内の 13 町内で 7 年から 26 年にかけて 6 億 2,676 万円の事業実施実績がある。
  - イ 特別対策事業：温水プール整備事業（約 21 億円）
  - ウ 市の独自事業：メムシ公園整備事業（約 8 億円）
  - エ 防災消防対策事業：消防署祝梅出張所整備事業（約 3 億円）
- (3) 枠拡大について
  - ・ 21 年 6 月より地域協議会での枠拡大協議を開始。
  - ・ 22 年 11 月、地域協議会で基本方針を示し、25 年度を目途に「必要枠数」「住宅防音対策」「地域振興対策」を示すことを説明。
  - ・ 平成 27 年 8 月、地域協議会（13 町内会より 25 名で構成）で必要枠数 30 枠と時間制限に合わせた「住宅防音対策」「地域振興対策」提案に合意、調印。
  - ・ 地域振興策として、総額 26 億円の基金を造成、10 年で積み立て、住宅防音工事の補完対策、地域振興対策を行っている。  
（住宅防音工事、補完対策合わせて 6,600 戸余りとなる）
  - ・ 地域振興対策基金 30 億の運用益は、平成 30 年度は、約 4,000 万円で、うち 1 / 3 を町内会助成事業に、残り 2 / 3 を地域安定化促進事業と生活環境整備事業に配分している。
  - ・ 北海道は、6 枠から 30 枠への変更に伴う経済効果について、約 81 億円と算出している。
  - ・ 騒音測定は概ね市街地の全域を測定し、国土交通大臣が定める騒音対策区域内を住宅防音対策等を実施する基本区域としている。



調査研究等報告書 (岩沼政策フォーラム)

まとめ (調査・研 修による 成果・効 果)	<p>北海道は、新千歳空港を24時間運用の一大エアカーゴ基地にするため、昭和61年3月に「北海道新長期計画案」に戦略プロジェクトとして位置づけた。航空機騒音に関する協議の場として千歳地域協議会を設置し、6枠に係る対策として住宅防音対策・地域振興対策を提示し、平成6年3月に基本合意に至っている。</p> <p>21年6月からは、30枠拡大について地域協議会において協議し、「必要枠数」「住宅防音対策」「地域振興対策(基金30億円)」を提示し、27年8月に合意に至った。</p> <p>仙台空港においても宮城県が時間延長を望むのであれば、周辺自治体、周辺地域住民に対し具体的な施策を提示することが必要であり、具体策を示しながら説明し、協議していくべきである。</p> <p>本議会の特別委員会における議論の中でも千歳市において調査を行った点を大いに参考にすると同時に、市当局においても住民とともに岩沼の将来について考え、対策を講じていくことが大切である。</p>
------------------------------------	--

II	調査・研修地	北海道千歳市 (新千歳ターミナルビルディング(株))
	調査・研修年月日	令和元年7月1日(月) 午後3時～4時30分
	調査・研修項目	千歳空港概要説明、エンタメ商業施設案内
	調査・研修内容等	<p><b>1. 調査・研修目的</b> 乗降客が年間2,363万人ある新千歳空港ターミナルビル内の受け入れ体制の構築、多様なニーズに適した新たなエンタメ商業施設のあり方と東京オリンピック開催に伴う施設の再生・整備状況を調査した。</p> <p><b>2. 調査・研修内容</b> ○空港ターミナルビルディングの概要、エンタメ商業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新千歳空港国際線旅客ターミナルビルは、平成22年3月より共用開始し、30年の利用者は国内線1,968万人、国際線385万人となっている。</li> <li>・現在、事業費650億円をかけ、出発ロビー及び到着ロビー施設の拡張、チェックインカウンター及び保安検査レーンの増設、ターミナルビル附属ホテルの建設を行っており、ターミナル部分の面積は既存の2倍となる約124,000㎡となる予定となっている。(令和2年4月完成予定。)</li> <li>・ターミナルビル1階は、一般車両、バス乗降場、駐車場、レンタカーヤードとなっており、2階は、国内線出発ロビー、食堂、お土産店、3階は、チョコレート工場、ハローキティハッピーフライト、ドラえもんわくわくスカイパーク、食堂、4階は、オアシス・パーク内に新千歳空港温泉などのアミューズメントエリアがある。</li> <li>・ターミナルビル内では、約8,000人が働き、年間約631億円の売り上げがある。</li> </ul>  
	まとめ(調査・研修による成果・効果)	<p>千歳空港ターミナルにおける受け入れ体制は、多様なニーズに適した新たなエンタメ施設をターミナルビル内に設置し、乗降客などが出発ロビー、到着ロビー、お土産コーナーの他にも楽しめる施設を設けるなど「遊び心」がある取組をしている。ラグビーワールドカップや東京オリンピックの開催により乗降客の増加が見込まれ、旅客塔なども拡張工事中である。</p> <p>空港の機能強化、施設の再整備とともにお客様目線を重視したアミュー</p>

調査研究等報告書 （岩沼政策フォーラム）

	<p>ズメントパーク的要素を兼ね備えた施設を整備し、北海道の空の玄関としての役割を担いつつ、旅客者以外も遊びに来て楽しむことができる施設となっている。</p> <p>仙台空港においても、行政が知恵を出し、市税が増加するような取組を考える努力が必要であり、ターミナルビルにおける事業にも目線を向けながら、空港との共生を進めていくべきである。</p>
--	---

Ⅲ	調査・研修地	北海道江別市 (江別市子育てひろば「ぽこあぽこ」)
	調査・研修年月日	令和元年7月2日(火) 午前10時30分～11時30分
	調査・研修項目	江別市子育てひろば「ぽこあぽこ」の運営について
	調査・研修内容等	<p><b>1. 調査、研修目的</b>          子育て中の家族が市内中心部のショッピングセンター内に気軽に利用できる施設として設置された子育て支援センターの利用状況、効果について研修を行った。</p> <p><b>2. 調査・研修内容</b></p> <p>(1) 子育て支援センターについて          江別市では、市内8か所(市直営3か所、民営委託5か所)に子育て支援センターを設置し、子育て中の家族が出会い交流し、情報交換や友だちづくり、子育ての悩み相談ができる場所となっている。また、子どもたちが自由に遊び、他の子と関わり育ちあう場として気軽に利用されている。</p> <p>(2) 子育てひろば「ぽこあぽこ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛称「ぽこあぽこ」の由来は音楽用語で「ゆっくり、ゆったり、少しずつ」という意味。「子どもたちが元気に遊びながら、ゆっくりと過ごせる施設になって欲しい」と愛称考案者の思いがある。</li> <li>・平成25年12月、イオンタウン江別2階に開設。開館時間は午前9時30分から午後5時30分までで、遊具の点検で休館する以外は年中無休である。</li> <li>・イベントスペースは約125㎡で、大型複合遊具、知育玩具コーナー、情報発信・交流コーナー、ハイハイコーナー、授乳コーナーなどがある。</li> <li>・まちなかの商業施設内にあることなどの利点を活かし、子育て世代に対し多様な支援(働きかけ)を行っている。</li> <li>・施設内での安全・安心な利用のため会員登録制としている。保護者と一緒に利用し、0歳から小学生6年生で市外居住の子どもも利用が可能。</li> <li>・運営体制は、非常勤職員(保育士等)3名から4名を配置して運営、受付を行っている。清掃業務は委託。</li> <li>・利用状況は、25年12月から31年3月までの会員登録総数は市内10,476人、市外34,566人、利用者総数は市内216,937人、市外254,281人。雨日の利用時は600人となるために2時間の時間制限で整理券を発行している。</li> <li>・令和元年度の収支決算見込み  <b>【歳入】</b>国庫補助金及び道補助金の子ども・子育て支援交付金各3,383千円。歳入合計は6,766千円。  <b>【歳出】</b>報酬10,227千円、需用費1,736千円、委託料8,337千円、</li> </ul>

	<p>施設賃借料 2,804 千円、託児運営費補助 1,618 千円等。歳出合計は 2,4981 千円で、市負担が 18,215 千円。</p> <p>(3) 有料託児等子育て支援サービスの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内企業と連携して、保護者のリフレッシュを目的として有料の託児サービス（一時預かり）を実施している。利用料は 1 時間 300 円で、最大 3 時間までとなっている。また、美容院や飲食店などを利用した際、負担軽減などを図る制度（保護者のリフレッシュ事業パートナー制度（9 店舗））を行っている。29 年度は 25 件、30 年度は 13 件の利用があった。</li> </ul> <p><b>3. 施設見学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設（イオンタウン江別）の 2 階約 125 m<sup>2</sup>に大型複合遊具が設置され、子どもたちが母親と遊具で元気に遊んでいた。雨や雪の季節も含め、年中無休で開館しており、土日、祝日などの利用者が多い時には、整理券を発行して対応しているとのことだった。その他に、知育玩具コーナー、情報発信・交流コーナー、ハイハイコーナー、授乳コーナーなどを見学した。</li> </ul> <p><b>4. 課題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型遊具の利用頻度が多いので、維持経費がかかる。</li> <li>・保育士（職員）の確保が難しい。</li> <li>・雨、雪の日、土日、祝日は利用者が 600 名と多いので対応が大変である。</li> </ul> <div data-bbox="379 1081 1211 1480">  </div>
<p>まとめ (調査・研修による 成果・効果)</p>	<p>江別市の人口減少対策の施策としてアンケート調査を実施したところ、その中で子育てしながら遊べる場がほしいという声があったことから、子育て中の家族が出会い交流し、情報交換や友だちづくり、子育ての悩み相談ができる場所として市内 8 か所（市直営 3 か所、民営委託 5 か所）に子育て支援センターを設置している。</p> <p>岩沼市においても子育て支援策を取り入れており、子育ての拠点施設（子育て支援センター）を整備しているが、子供達が安心して遊べる施設の整備も検討する必要がある。今後、子育て支援策が少子化対策や人口減少の加速化を防ぐ施策になると思われることから、改めて市民が何を求めているのかニーズを確認する必要があると考える。また、場所の選定、運営内容などにおいても柔軟な考えを取り入れることも必要であると考え</p>

IV	調査・研修地	北海道勇払郡厚真町 (厚真町内)
	調査・研修年月日	令和元年7月2日 (火) 午後2時0分～3時30分
	調査・研修項目	北海道胆振東部地震災害現場視察
	調査・研修内容等	<p><b>1. 調査・研修目的</b>                      岩沼市にも土砂災害警戒区域があることから、災害現場を視察することにより、土砂災害の恐ろしさや対策の重要性について再確認するため調査を行った。</p> <p><b>2. 調査・研修内容</b>                      地震の被害状況、土砂災害、住宅崩壊現場視察、復旧工事現場の視察を行った。平成30年9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震は、最大震度7を観測、甚大な人的、物的被害を引き起こした。3千万立法m<sup>3</sup>もの土砂が人家や農地を飲み込んだ。</p> 
まとめ (調査・研修による成果・効果)	<p>災害はどのようなものでも大変な被害をもたらすが、被災状況はテレビ、や新聞で見るよりもかなりのすさまじいものであった。また、土壌の状況を見ると、粗目の土で滑りやすいものであるように感じた。復旧工事は現在進めている状況だが、まだ始まったばかりという感じであり、早急に進めてほしいと願うばかりです。</p> <p>岩沼市においても、西部地区には後ろに山を背負っている住宅が多くあり、地震に限らず、大雨など様々な土砂崩れの危険がある。地質や竹・針葉樹・広葉樹などの樹木の種類によっても発生状況や被害状況が異なると考えられるので、その当たりの情報を収集し、公開・公表するなど、災害に備えた対応をとるべきと考える。</p>	

V	調査・研修地	北海道札幌市（北海道さっぽろ「食と観光」情報館）
	調査・研修年月日	令和元年7月3日（水） 午前9時～10時20分
	調査・研修項目	北海道さっぽろ「食と観光」情報館の運営について
	調査・研修内容等	<p><b>1. 調査・研修目的</b></p> <p>北海道は、多種多様な食料生産地であり、食について観光客の集約を図っている。また、道内各地の観光事業の案内についてもさまざまな取組を行っている。調査を行った札幌市では、観光客や市民への「観光案内」や「食の魅力」の発信拠点として、北海道と札幌市が連携した「北海道さっぽろ「食と観光」情報館」をJR札幌駅構内に設置している。岩沼市においても、今後インバウンドの拡大に力を入れる中で拠点づくりが重要となることから、受け入れる側としての環境整備について調査を行った。</p> <p><b>2. 調査・研修内容</b></p> <p>○施設概要について</p> <p>北海道庁の北海道観光振興機構（公社）と札幌市の札幌観光協会（一社）が事務局となり、北海道内の観光案内、宿泊施設紹介、道産品の展示、販売紹介を行っている。</p> <p>設置場所はJR札幌駅西コンコース北口で、8時30分から20時まで開館（年中無休）している。平成19年2月に開設し、30年度の来館者は1,636,847人、設置面積は1,165㎡。</p> <p><b>3. 館内施設</b></p> <p>① 北海道さっぽろ観光案内所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営：北海道さっぽろ観光案内所運営協会</li> <li>・人員14名（所長、副所長、スタッフ：英語7名、中国語・韓国語5名）</li> <li>・札幌及び北海道全域の観光案内と時報発信、周遊チケット販売定期観光バス予約、お土産品の販売などを行っている。</li> </ul> <p>② 札幌観光ボランティア案内カウンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営：札幌観光ボランティア連絡会</li> <li>・常時2名（シフト制）の3交代制で対応（観光ボランティア登録者数は178名。）。</li> </ul> <p>③ JRインフォメーションデスク（外国人デスク）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営：JR北海道</li> <li>・外国人向けレイルパス及びJR乗車券類の販売を行っている。</li> </ul> <p>④ 北海道ユニバーサル観光センター・札幌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営：北海道ユニバーサルリズム推進協議会</li> <li>・バリアフリー対応の観光地、宿泊施設等の紹介、福祉タクシー、レンタカーの案内、車いす、介護、福祉用品のレンタルを行っている。</li> </ul>

- ④ 北海道どさんこプラザ札幌店
  - ・運営：北海道貿易物産振興会
  - ・道産品の展示・販売・紹介（2,000点扱い）、道内の新商品の試験販売、商品開発、販路拡大を支援。
- ⑤ カフェ ノルテサッポロ
  - ・運営：札幌振興公社
  - ・64席で道産食材を使用した軽食・ドリンクの提供や、コインロッカーの運営を行っている。
- ⑥ 元気ショップ「いこ〜る」
  - ・運営：札幌市手をつなぐ育成会
  - ・障がい者の作業所、施設で制作された作品の展示・販売を行っている。（道内170カ所から約5,000点を扱う。）

4. 訪日外国人来道の推移

- ・北海道経済部観光局の報告によると19年では訪日外国人の北海道への来道者数は710,950人であったが、29年では2,792,100人と3.9倍となっている。
- ・北海道さっぽろ観光案内所の利用状況は、19年度の1,523,836人から30年度の1,636,847人へと推移している。
- ・30年度の国別外国人利用者数は、67,095人のうち韓国が13,500人と1位で、中国11,760人、台湾6,408人とアジア人が8割を占めている。
- ・シンガポールなどの南国の旅行客からは、北海道はいつも雪があると思う間違った情報で来る旅行客もいる。最近のSNSなど情報発信に伴い、個人のリピーターが増加している。



まとめ  
(調査・研  
修による  
成果・効  
果)

北海道は多種多様な食料生産地であり、各地域が観光地でもある。各地域への観光案内を重視し、JR札幌駅内に「北海道さっぽろ「食と観光」情報館」を設置し、北海道庁の北海道観光振興機構と札幌市の札幌観光協会が北海道内の観光案内、宿泊施設紹介、道産品の展示・販売・紹介などを行っている。

岩沼市においても、岩沼駅、仙台空港と陸と空の玄関口が2つある。人員を配置して事業を行うまでの観光都市ではないが、パンフレットなどの設置以外にも岩沼市を經由した観光を模索するなど、新しい方法を考えて実行してみる必要性もあるのではないかと考える。

VI	調査・研修地	北海道札幌市 (札幌市資生館小学校 (子育て支援施設))
	調査・研修年月日	令和元年7月3日 (水) 午前10時30分～12時
	調査・研修項目	札幌市資生館小学校 (子育て支援総合センター) の運営について
	調査・研修内容等	<p><b>1. 調査・研修目的</b></p> <p>少子化に伴う歴史ある札幌市内中心部の4小学校統合、保育所待機児童対策や子育て支援、地域コミュニティのあり方などの課題に対する、文部科学省と厚生労働省の垣根を超えた取組について、調査を行った。</p> <p>岩沼市においても少子化や人口減少が進んでいく中、今後学校の統廃合なども考えられる。また、公民館や保育園などの複数の機能を併せ持った複合施設としての学校施設のあり方について、既に検討を始めている自治体もある。そこで、今後の参考とするため、小学校と放課後児童クラブ、保育園、子育て支援センターの機能を併せ持つ子ども関連の複合施設を設置した札幌市の札幌市立資生館小学校の取組について調査を行った。</p> <p><b>2. 調査・研修内容</b></p> <p>① 事業概要 (札幌都心部子ども関連複合施設)</p> <p>ドーナツ化現象による都心部4小学校 (創成小、大通小、豊水小、曙小) の児童数減少に伴い、学校統合による適正規模化 (資生館小学校) を図った。地域の要望でミニ児童会館の設置、共稼ぎ・ひとり親家庭の支援、保育所待機児童対策としての全市的に利用可能な保育園の設置、子育て支援センターの開設など、0歳から児童期までの一貫した支援を行い、また、地域コミュニティの再構築を目指し、開かれた施設づくりを行っている。</p> <p>② 建設の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年8月、札幌市学校適正規模検討懇談会の設置 (学識経験者5名、市民5名、教職員4名)</li> <li>・12年意見書提出 (都心部小学校統合計画スタート)</li> <li>・12年から保護者、同窓会、地元町内関係者等への説明会 (約70回)</li> <li>・13年8月、臨時会議で統合校設計費の補正予算を計上 (総工費約40億円)</li> <li>・14年8月着工</li> <li>・16年3月開校 (30年で開設15年目となる。)</li> </ul> <p>③ 4つの複合施設</p> <p>ア コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互交流             <ul style="list-style-type: none"> <li>1階の交流ラウンジ、5階のランチルーム、天然芝生のグラウンド</li> </ul> </li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・開放 地域に開かれた施設として大きな窓ガラスを設置するなど、開放頻度を考慮した各室の配置としている。また、メモリアルホールや交流ホール、体育館の開放事業として、地域住民の自主管理方式による体育振興会を設置して運営を行い、地域コミュニティの場としても学校を活用している。</li> <li>・環境 セットバック方式、地割りモジュール、グラウンドの芝生化、太陽光発電システム（約8%節電と環境教育）、バリアフリーなど</li> <li>・安全 常時警備（通年6：30～22：30）、監視カメラ10台設置、Dカード、防犯ブザー、全館合同避難訓練</li> </ul> <p>イ 運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市都市部子ども関連複合施設運営協議会 会長：資生館小学校長 委員：小学校教頭、保育園長・主任保育士、子育て支援センター課長・係長、ミニ児童会館長、市学校施設課課長 事務局：小学校事務職員、資生館小学校、ミニ児童会館、子育て支援総合センター、しせいかん保育園、市学校施設課</li> </ul> <p>ウ 施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設専用部分は施設長の管理 （共有部分（共用ロビー）、共有設備（冷暖房、空調等）は学校施設課長が管理）</li> </ul> <p>エ 交流企画、複合施設交流プロジェクト（交流の年間計画立案）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に生まれる交流（相互に見える動き、感じ取る動き、見ることが学ぶこと）</li> <li>・各種事業の相互参加（館内展示物、各施設実施イベント、行事への相互参加）</li> <li>・施設、設備の共用</li> </ul> <p><b>3. 4 複合施設の概要</b></p> <p>① 資生館小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数約562名</li> <li>・施設内容：オープン型普通教室、ランチルーム、室内温水プール等</li> <li>・スクールバス通学（バス5台、停留所22か所、利用率約50%）</li> </ul> <p>② ミニ児童会館 放課後に児童が安全で健やかに過ごす場（1日の利用者約110人）</p> <p>③ しせいかん保育園（公設民営）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容：乳幼児併設、延長保育、一時保育、夜間保育、障害児保育</li> <li>・定員120名、夜間保育定員40名</li> </ul>
--	--	---

- ④ 子育て支援総合センター
  - ・所管：札幌市子ども未来局子育て支援部
  - ・職員数：13名
  - ・施設内容：プレイルーム、乳児室、講義室、図書・こそだてインフォメーション、事務所
  - ・利用状況：年間利用者約 36,642名（平成30年実績）

4. 連絡会について

- ① 複合施設運営協議会（校長、教頭、園長、主任保育士、館長など）  
各施設の円滑な運営のための情報の共有、連絡調整を行う。
- ② 複合施設共同防火管理協議会  
施設全体の消防・防犯計画策定、実施（年4回）、審議・研究
- ③ 4施設定例連絡会議  
毎月第一金曜日に開催。施設間の行事日程等の調整、施設の管理運営、情報交換を行う。

5. 施設見学

4複合施設のうち資生館小学校では、3階及び4階にオープン型普通教室、最上階5階にランチルーム、別館保育園の2階に室内温水プール、建物の地下内に体育館（屋内運動場）が配置されていた。施設内1階には子どもたちが放課後に安全で健やかに過ごす場であるミニ児童会館と子育て支援総合センターが開設され、しせいかん保育園が別館として配置されている。また、統廃合された4小学校創設時からの思い出などを展示するメモリアルホールを設置している。



札幌市の都心部小学校が少子化に伴い歴史ある4小学校統合し、保育所の待機児童解消、子育て支援、地域コミュニティーの場として、4施設を連携して運営している。

まとめ  
(調査・研修による  
成果・効果)

4施設は、複合施設交流プロジェクトにより密接に連絡会を開き各施設の課題に取り組んでいる。

今後人口減少が進み、税収減が見込まれる中で、公共施設を適正に維持し、運用していくことも大きな課題となる。少ない予算を重点的に投資して、どこよりも手厚い教育環境を整備することは子どもたちや市の将来にとって有効な施策ではないかと思う。大人（地域住民や教育関係者）のための学校運営だけではなく、子育てする世代や子どものための施設としての活用も考えるべきである。